

## 67 子宮腫瘍例の CEA に関する検討

東邦大学放射線科

戸張千年、黒沢 洋

同、産婦人科

室井克夫、野口昭二、渡辺 肇、大村 剛

われわれは、特に婦人科領域の子宮腫瘍の核医学的考察を加えている。今回は、子宮腫瘍（頸癌および体部癌）の血中 CEA 値の変化を術前および術後・放射線治療後について検討を加えたので報告する。

対象は当院産婦人科に入院した例の術前および術後並にⅢ・Ⅳ期例では放射線治療後に血中 CEA 値を測定した。病期分類は臨床的所見によった。血中 CEA を測定した。血中 CEA 値の測定は通常用いられている CEA 値測定キット（ダイナポット社）により行なった。

結果は、子宮腫瘍全体で術前では  $1\%$  の 23 % に、また術後では  $2/3$  の 15 % に認められその値は減少した。内訳けは、頸部癌の病理組織・腺癌例の 6 例の術前では 3 例、50 % に認められ、術後は本 3 例共に正常値へ復した。扁平上皮癌例の 31 例の術前では 8 例、26 % に認められ、術後の 9 例では 2 例の 22 % に認められ、術後を正常値に復した例は 1 例のみであった。また頸癌（扁平上皮癌例）の病期別分類では、術前に高値を認められた症例は、st. 0 で  $\frac{1}{3}$  、st. I (a+b) で  $\frac{1}{3}$  、st. II (a+b) で  $\frac{1}{8}$  (13%) 、st. III (a+b) で  $\frac{5}{12}$  (42%) および st. IV で  $\frac{1}{6}$  (40%) を示していた。

一般に CEA は大腸癌の病理組織腺癌に比較的特異性が有ると報告されている。今回のわれわれの過去 2 ヶ年の症例では、術前において頸部・体部癌を含めて 23 % を示し、頸部で 30 % であり、諸家の報告とほぼ一致していた。

加えて今回の検討で頸部腺癌の CEA 値が比較的高値を示し、術後全例正常に復していることは興味深かった。

68 悪性腫瘍群および非悪性腫瘍群における血清  $\beta$  2-microglobulin 値と血清 CEA 値の比較：特に両者の相関について

弘前大学医学部第 1 内科

鈴木明夫、石沢 誠、小松良彦

三沢市立三沢病院

坂田 優

同、R I 検査部

昆 武雄、伊藤 享、出戸常春

五所川原西北中央病院第 2 内科

富田重照

血清  $\beta$  2-microglobulin（以下、 $\beta$  2-MG）値と血清 CEA 値を R I A 法により、8 例につき測定した。そのうち 4 例は悪性腫瘍群、残り 4 例が非悪性腫瘍群であった。これら 2 群における  $\beta$  2-MG 値、CEA 値につき検討を加えた。

$\beta$  2-MG 値については以下の通りであった。全体としては、n = 8 2, mean = 2.5 2  $\mu$ g/ml, S.D. = 1.70。悪性腫瘍群では、n = 4 1, mean = 2.8 6, S.D. = 2.0 6、非悪性腫瘍群では、n = 4 1, mean = 2.1 8, S.D. = 1.1 8 であった。また、この 2 群間の平均値には有意差がなかった。

CEA 値については、全体で、n = 8 2, mean = 3.8 8  $\mu$ g/ml, S.D. = 6.4 7。悪性腫瘍群では、n = 4 1, mean = 6.7 9, S.D. = 8.1 8、非悪性腫瘍群では、n = 4 1, mean = 0.9 7 8, S.D. = 0.7 7 3 であり、両群の平均値には有意差があった ( $P < 0.001$ )。

また、 $\beta$  2-MG 値と CEA 値についての 1 次相関をみると、全体としては、 $r = 0.3 2 5$  ( $P < 0.005$ )、悪性腫瘍群では、 $r = 0.3 2 5$  ( $P < 0.05$ )、非悪性腫瘍群では、 $r = -0.2 7 3$  ( $0.05 < P < 0.01$ ) であった。全体および悪性腫瘍群で相関があった。

最近、血清  $\beta$  2-MG 値が、多発性骨髄腫以外の悪性腫瘍においても上昇するとの報告がある。しかし、われわれのデータでは有意差がなかった。また、CEA 値については、他の多くの報告と同様に、悪性腫瘍群において有意の上昇があった ( $P < 0.001$ )。 $\beta$  2-MG 値と CEA 値との間には、非悪性腫瘍群以外では相関があった。

今後、 $\beta$  2-MG 値の経時的变化と腫瘍の進展度との関連を検討すると共に、胸水・腹水中の  $\beta$  2-MG 値を測定することにより、悪性腫瘍における  $\beta$  2-MG の由来にも言及していきたいと思う。